

# スッポンの病害研究 - 1

照屋忠敬、嘉数 清

昭和47～49年度において、スッポン養殖技術研究を行なったが、まだ完全とはいえ、とくに疾病対策については明確にされていない。

疾病対策研究を行なうことによりスッポンのへい死をより少なくし、スッポン養殖業の安定的発展を期したい。

本年度は、へい死状況調査、水質調査及び罹病スッポンより細菌の分離同定を行なった。

詳細については、昭和50年度指定調査研究報告書病害部門にて報告したので、ここでは要約にとどめる。

## 1 へい死状況調査

養成亀で成長にともなう分養直後に多数のへい死がみられ、養殖技術を検討する必要があると思われた。

親亀では、冬眠あけ（2月中旬～4月中旬）にへい死が多くなる傾向がみられた。

## 2 水質調査

養成池の水温、PH、DO、NH<sub>4</sub>-N量などを測定した結果では、池水が過度の腐濁を起さない限り、水質の変化はへい死量にさほど影響しない。

## 3 罹病スッポンより細菌の分離同定

罹病個体と思われるスッポンより、普通塞天培地を用いて常法に従って細菌分離を試みた。罹病スッポン5例より18株、9属（Klebsilla、Citrobacter、proteus、Aeromonas、Clostridium、Moraxella、Acinetobacter、Pseudomonas、Corynebacterium）の菌を分離した。

病原性試験、薬効試験はまだ行っていない。

## 病害発生状況

照屋 忠敬

昭和50年度に、当支場試験池及び石垣島内の養殖場よりもちこまれた(スポンをのぞく)病魚についての概要を表にまとめた。

表 昭和50年度に石垣島内の養殖場で発生した魚病の調査結果

魚 種	月・日	病 名	養 殖 場	備 考
ウ ナ ギ	3.18	白 点 病	先島開発	イクチオフチリウスの体表寄生、7～8cmものに発生。 病魚除去、池水交換。
	6.10	ベ コ 病	光 和 岡 崎	プリストフオラの寄生、シラスに大発生、50～70%の被害をうける、病魚除去
草 魚	4.7	イカリムシ寄生	当支場	イカリムシの体表寄生、トリクロルホン0.2～0.3ppm 薬浴
	7.8	”	”	
コ イ	4.17	細菌性疾病	宮 良	肝臓より細菌が分離されたが未同定。 立鱗、鰓の膨脹 肝臓褪色、腸は異状なし
ゴ マ ア イ ゴ	4.11	カリグス寄生	当支場	カリグスの体表寄生 春、秋の水温が23℃前後に発生 トリクロルホン0.2～0.3ppm 薬浴
	11.7	”	”	
ミナミクロダイ	9.4	ビブリオ病	当支場	肝臓よりビブリオ分離 鰭、鱗にスレ 肝臓褪色